

教育委員会議事録

(公開部分)

令和 6 年11月定例会

海老名市教育委員会

教育委員会議事録
(令和6年11月定例会)

- 1 日 付 令和6年11月19日(火)
- 2 場 所 えびなこどもセンター 2階 201会議室
- 3 出席委員
- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 教育長 | 伊藤 文康 | 教育委員 | 平井 照江 |
| 教育委員 | 濱田 望 | 教育委員 | 武井 哲也 |
| 教育委員 | 海野 望 | | |
- 4 出席職員
- | | | | |
|---|-------|--|-------|
| 教育部長 | 江下 裕隆 | 教育部次長 | 吉川 浩 |
| 教育部教育支援
担当部長兼教育
支援担当次長事
務取扱兼教育支
援課長事務取扱 | 麻生 仁 | 教育部参事兼教
育総務課長 | 西海 幸弘 |
| 教育部参事兼就
学支援課長兼指
導主事 | 山田 圭 | 教育部参事兼教
育支援課教育支
援担当課長兼教
育支援センター
所長兼指導主事
兼支援係長事務
取扱 | 小藺 洋 |
| 学び支援課長 | 松本 晃子 | | |
| 教育支援課副主
幹兼指導主事 | 五十嵐 光 | | |
- 5 書 記
- | | | | |
|---------------|-------|---------|-------|
| 教育総務課総務
係長 | 小林 亮介 | 教育総務課主査 | 片山 考人 |
|---------------|-------|---------|-------|
- 6 傍聴人 1名
- 7 開会時刻 午後3時32分
- 8 付議事件
- (1) 審議事項
- | | | | |
|-------|-----|------|---------------------------|
| 日程第 1 | 議案第 | 24 号 | 令和6年度全国学力・学習状況調査の公表内容について |
|-------|-----|------|---------------------------|
- (2) 報告事項
- | | | | |
|-------|-----|------|---|
| 日程第 2 | 報告第 | 34 号 | 令和6年度海老名市一般会計補正予算(第6号)のうち
教育に関する部分に係る意見の申出について |
|-------|-----|------|---|
- 9 閉会時刻 午後4時50分

○伊藤教育長 本日の出席委員は全員でございます。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。これより教育委員会11月定例会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

本日は、傍聴希望者がございます。傍聴者につきましては、教育委員会会議規則第19条に規定されておりますので、傍聴を許可したいと思います。ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって傍聴を許可します。傍聴人を入室させてください。

本定例会の会議録署名委員は、濱田委員、海野委員にそれぞれよろしくお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは、教育長報告をいたします。

初めに、主な事業報告でございます。

10月18日（金）は、前回の10月定例教育委員会がありました。教育課題研究会、その日に学校応援団連絡会がありました。その後、臨時校長会議を開いて、校長先生たちに集まっていただいて、皆さんに決めていただいた教育委員会人事異動の方針をすぐに伝えたところでございます。

19日（土）は、ひびきあい塾閉校式、小学生のえびなロボットコンテストを行いました。神奈川工科大学の協力を得て行っているところでございます。えびな安全安心フェスティバルに参加して、緑化ポスターコンクール表彰式を行いました。

23日（水）は、フルインクルーシブ教育対話の場が有馬中学校でありました。

24日（木）は体育祭で、海老名中学校、海西中学校、柏ヶ谷中学校、今泉中学校で、それぞれ教育委員さん方にも見ていただきました。県都市教育長協議会臨時総会を行いました。

25日（金）も教育委員さん方に出席いただきましたが、小学校連合運動会が運動公園陸上競技場で行われました。

26日（土）は、食育ポスターコンクール表彰式、海老名市PTA連絡協議会単位PTA会長会がありました。

27日（日）は、海老名市児童画コンクール表彰式と都市間交流児童画コンクール表彰式を行いました。

28日（月）もフルインクルーシブ教育対話の場が大谷小学校でありました。

29日（火）は、不登校支援団体連絡会の方々とフルインクルーシブ教育対話の場を行いました。中学生都市間交流白石市訪問団来館は私に対する表敬訪問で、みんなと話をし
て……。でも、子どもたちは茅ヶ崎に行ったようであります。白石には海がありません
で、そういう意味で海を見たい。もちろん温故館も見学して、海老名に1泊して、私は行
けなかったのですけれども、海西中学校の生徒と交流事業を行ったところでございます。

○濱田委員 何人ぐらい来られたのですか。

○教育支援担当部長 4人です。

○伊藤教育長 先生と行くからね。

それから、この日もフルインクルーシブ教育対話の場が大谷中学校でありました。

30日（水）は、中新田小学校で初任者授業参観がありました。

31日（木）は、校長連絡会と令和7年度予算編成調整会議を行ったところでございま
す。少し寒いですが、今度、白石に中学生が行きますので、中学生都市間交流白石
市訪問団結団式を行いました。

11月に入って、1日（金）は朝のあいさつ運動を上星小学校で、2日（土）は、県社
協連地区研究会海老名大会がありました。神奈川県内の社会教育委員さん方の集まりのも
ので、海老名で大会が行われて、そのときに、併せて、えびなっこいきいきシンポジウム
とえびなっこふれあいフェスタを行ったところでございます。ここでは、自分たちの事業
の取組紹介を笑点風にやったのですよ。ステージに座布団を敷いて。

○濱田委員 大喜利風に。

○伊藤教育長 いい紹介をしたら座布団を1枚あげて。どうもこれまでそんなことをした
市町村はないみたいで、非常に受けました。

○武井委員 面白そうですね。

○伊藤教育長 まあ、よくやってくれたなと思っていますけれども。

○武井委員 確かに。

○伊藤教育長 3日（日）は、市制施行記念式典で功労者表彰を行いました。文化スポー
ツ賞表彰式典もありました。

5日（火）は、県市町村教育長連合会幹事会と総会を行いました。

6日（水）は、11月校長会議、「大作曲家の音符たち」ということで、EBINAお登美さ
ん財団事業で、文化会館小ホールの講演会に参加しました。

7日（木）は、小学校連合運動会実行委員会の反省会で挨拶をしました。県中学校長会幹事会、各市を回って校長会の代表者の幹事会があって、そこで挨拶をしました。「ふるさと昔かたりの会」ということで、昨年あたりからそういう会の方々が、とにかく方言で昔話をやる方々がいらっしやいまして、その方々と面会して、1月にそういう会をすることです。子どもたちに聞かせるのはいいのですけれども、大人の方、結構高齢の方が懐かしくて、たくさん来るのですよ。そういう会の方々が来られました。

8日（金）、9日（土）は、皆さんと群馬県太田市に教育委員県外研修で行ったところでございます。

9日（土）は親子ナイトウォークラリーがありまして、今年も大盛会で、本当に多くの人たちに集まっていただけて行われました。

10日（日）は、日曜日ですが、学校給食献立コンテスト入賞者表彰式がありました。

11日（月）は、11月教頭会議、フルインクルーシブ教育対話の場を今泉中学校で行いました。

12日（火）は、初任者拠点校指導員連絡会がありました。それからコカ・コーラさわやかコンサート寄付寄贈式がありました。毎年コカ・コーラから30万円ほどの寄附を頂いてコンサートを進めていますので、その贈呈式がありました。今日、この後の議題にありますけれども、全国学力・学習状況調査結果説明会ということで、学校には一応説明したところでございます。学校内のものですが、今日は皆さんに市として公表することについてご審議いただきたいと思います。

13日（水）は、市議会11月臨時会がありました。ここでも補正予算がありましたので、後でその報告をさせていただきます。

14日（木）は、小学校支援級宿泊研修出発式に参加しました。第51回目の学校保健研究協議会が行われました。

15日（金）は、フルインクルーシブ教育対話の場として海西中学校で話をしました。

16日（土）は、大谷小学校の運動会、国分宿遺跡・相模国分寺跡28次調査現地見学会ということで、瓦だまりのようなものが発見されて、そこにはすごく市民の方も関心が高く、240名ほどの市民の方が現地の発掘現場の調査見学会を行ったところでございます。子ども体験講座「こどもおしごとちゃれんじ」ということで、海老名総合病院のお医者さんたちとか看護師さんたちがこどもセンターでそれぞれのブースで、要するに自分た

ちが検査のためにやっていることを子どもたちが集まってきておしごとちゃれんじ。要するに、看護師とか、検査の仕事とか、そういうものを体験したのですよ。これに300人以上来てしまいまして、すごく関心が高くて、電気メスで肉を切るコーナーがあって……。

○武井委員 体験もできるのですか。

○伊藤教育長 子どもたちもやらせてもらえるのですよ。そうしたら、本当に豚肉なんかを持ってきてやるから、焦げた臭いが何とも言えず……。

○武井委員 おいしそうですね。

○伊藤教育長 あと、様々な検査で、私も血管年齢をはかられてしまいました。

○武井委員 ちなみに、何歳だったのですか。

○伊藤教育長 六十数歳で、少し若かったです。でも、子どもたちがこういういろいろな仕事……。今、看護師が不足していたり、向こうは向こうでいろいろ課題があるので、そういう意味では、企業の方々もどんどん子どもたちにこういう活動をするのはいいことなのかなと思っています。今の保護者の方は、そういう形で広報すると案外よく見ていて、子どもたちを結構連れてくるのですよ。そういう意味では面白い。でも、あまりにも会場が狭かったので、来年やるのなら、もっと広い会場でやらなければいけないなということは反省点になっています。

○武井委員 300人はすごいですね。

○濱田委員 総合病院からのリクエストなのですか。そうではなくて……。

○伊藤教育長 向こうからリクエストというか、こういうのをやるからと。こちらは、では、おしごとちゃれんじみたいなものできちんとやったほうがいいのではないですかという逆提案をしたところでございます。

17日（日）は、えびな市民まつりということで、いい天気で、これも大盛況でした。

○武井委員 暑かったですよね。

○伊藤教育長 18日（月）、今週になって県教職員人材確保・育成推進協議会がオンラインでありました。あとはフルインクルーシブ教育対話の場として柏ヶ谷小学校で話をし、本日19日（火）は11月定例教育委員会と教育課題研究会、私、午前中は杉本小学校に初任者授業参観に行ってきました。

主な事業報告等について何かありましたらお願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○伊藤教育長 よく仕事をしているなと思っていただければ、それで結構でございますの

で。

それでは、コラムというか、私から、今日は『仲間（なかま）』ということ」ということで書いてあります。皆さんもそうですけれども、私も、これまで山の仲間とか、アパート、下宿の仲間とか、職員室の仲間とか、学級の仲間とか、教育委員会に来て仲間と一緒に仕事をしているということで、一緒にいる時間が長いほどいいのですけれども、えらい難しいことがあったり、大変な思いすると、それがまた深まるというものもあるかなと思っています。

あとは、私自身、いろいろな人がいたほうが面白いなといつも思っていて、同じような人が集まると方向を間違えてしまうので、ばらばらの人が集まって、みんなで何だかんだ言いながらやるのが一番いいなといつも思っているところでございます。ここにあるように、同じユニフォームを着ていても、それぞれが違うことが大事だと私は思っています。

なぜこのことを言うかという、学級担任だったので、学級をつくる時は常に仲間づくりだとずっとやってきたのです。だから、計画的に教育はやるのですけれども、どんな子どもたちがそこにいても、フルインクルーシブでみんなを尊重してお互いに話し合えたり、好きなことを言ってけんかもしたりしながら過ごすのが大事かなということがそこに書いてあります。

1年間やると、ここにあるように子どもたちは子どもたちで、自分の目の前でいろいろな課題を解決しながらだんだん仲よくなるから、これは自分でクラスをつくっていて、例えば卒業式とか、1学年を終えた終業式の日なんか、ここがなくなるということを子どもたちはすごく……。要するに自分たちの仲間の空間がなくなって、ここはもう最後だと思うのと結構子どもたちが泣いたりするのです。ここの空間はもうこれで終わりなのと。だから、仕事をしていても、私は教育委員会にいてもそういう感覚でずっとやってきているので、失礼ですけれども、教育委員さん方に対しても私は仲間だと思っているので、人事上のことは言えないですけれども、今のこの空間が、例えば人事異動で顔が替わるということは様々な思いが自分の頭の中をよぎるといえるか、そういう感覚であることを……。

だから、この「共に過ごす、職務を果たす時間が、みなさんの生きる道のり」。だから、私としては、例えば武井委員なら武井委員の人生の道のりの中で、よりよき時間であればいいと、私は4人の教育委員さん方を思っているということが書いてあります。今後とも海老名の教育を思う仲間として、よろしくお願いしますということで締めてあります。

あとは10月の教職員への便りが掲載されています。

以上でございます。よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、議事に入ります。

審議事項、日程第1、議案第24号、令和6年度全国学力・学習状況調査の公表内容についてを議題といたします。

説明をお願いします。

○教育部長 それでは、資料1ページをご覧ください。議案第24号、令和6年度全国学力・学習状況調査の公表内容についてご説明申し上げます。

提案理由につきましては、令和6年度全国学力・学習状況調査の公表内容を決定したいためでございます。

詳細につきましては、麻生教育支援担当部長からご説明申し上げます。

○教育支援担当部長 資料2ページをお開きいただきたいと思います。令和6年度全国学力学習状況調査の公表内容についてでございます。

1、趣旨、令和6年度全国学力・学習状況調査における海老名市の調査結果及び市内小中学校の調査結果を集約、分析し、冊子としてまとめました。このことから、別添資料のとおり、公表を行いたいものでございます。

2、公表内容、(1) 令和6年度全国学力・学習状況調査、海老名市の結果、こちらは別冊資料カラー版の表紙になっているものとなります。(2) 令和6年度全国学力・学習状況調査、学校の調査結果(19校分)、こちらも別冊資料案として、少し厚手の冊子になっておりますが、お手元にあると思います。この2点について公表を行いたいものでございます。

3、経過及び今後のスケジュール、令和6年4月18日、令和6年度全国学力・学習状況調査を実施いたしました。11月12日、市結果説明会(海老名市立小中学校教職員対象)として、管理職プラス1名の先生方をお呼びし、説明会を実施いたしました。11月19日、本日、この内容について、ご審議、ご決定賜りたいと存じます。12月6日、市のホームページに各校の結果冊子及び市結果冊子を公開したいものでございます。ホームページに、この後、ご説明します概要版及び結果説明動画を公開する予定でございます。各家庭には各校の結果も一斉配信する予定でございます。

なお、こちらの冊子については、海老名市役所の1階の情報公開コーナーに配架する予定でございます。

それでは続いて、内容についてご説明申し上げます。まず、カラー版の別冊資料をご準備いただければと思います。冊子を開いていただきまして、1ページ目、はじめにと下に公表の目的、内容等が記載されております。

もう1ページお開けいただいて、2ページ、A4横になっている部分でございます。こちらは、いわゆるダイジェスト版と呼んでいる資料になります。調査対象は、本市の小学校6年生、中学校3年生に実施いたしました。人数はそれぞれおよそ1000名ずつでございました。結果の内容については、左側の1番に学力調査結果の概要がございます。小学校、中学校に分けてございます。小学校は、国語については全国と比べてやや下回っており、算数は上回っているという結果でございました。中学校については「全教科とも」との表記がありますが、大変申し訳ありません「各教科とも」と「全」を「各」に訂正をお願いできればと存じます。各教科とも全国と比べて上回っているという結果でございました。こちらの各教科の分析内容、結果については、後ほど分析を担当した指導主事より詳細に説明いたします。

その下、2番、児童生徒質問紙調査結果の内容でございます。こちら、青いグラフが全国小中学校平均を1とした値になっています。それに対して、海老名市の小学校、中学校の結果を赤で示しておりますので、その重なり具合等で海老名市の小中学生の生活、質問紙に係る結果が見てとれるようなグラフになっております。こちらにつきましても後ほど分析を担当しました担当指導主事よりご説明申し上げます。

この学力の部分、児童生徒質問紙の結果を受けて、ご家庭にお願いしたい内容として、右ページの上ですけれども、星4つで表記しております。こちらについても後ほど詳細をご説明します。

その下の4番でございますけれども、学力向上に係る海老名市の教育施策として1番から8番まで取り組んでいる内容、そして今、フルインクルーシブも始まり、教育大綱にのっとり、誰ひとり取り残さない教育の実践をめざしますという表題をつけて掲載しているところでございます。

続いて、3ページ及び4ページにつきましては、ただいまご説明いたしました2ページのダイジェスト版の内容を拡大したグラフ等になっておりますので、ご高覧いただければと思います。

そうしましたら、5 ページ以降の学力調査結果について担当から詳細をご説明差し上げます。

○五十嵐指導主事 学力調査結果についてお伝えをさせていただきたいと思います。ここから8 ページにわたって、小学校は、国語、算数、中学校は、国語、数学、今年度の学力調査を実施した教科について各2 ページずつ、合計8 ページで示しております。公表の内容、左上から調査問題の内容、そして全体の結果として、平均正答率、平均正答数、正答数の分布を、棒グラフが海老名市、折れ線グラフが全国で比較できるように示しております。全何問中何問正答したか、正答数の傾向を表しております。また、学習指導要領に示されている領域別で、平均正答率、平均無解答率をグラフ、表で示しております。同様に問題形式別にも、平均正答率、平均無解答率について表で示しております。

また、右側のページにつきましては、それぞれ分析を行った担当指導主事による結果の分析、考察、そして改善点などについて示しているところです。全国との差があるなど海老名市の解答状況に特徴があるもの、問題をピックアップし、それを踏まえて、分析、考察、改善点を示しております。全てそのような内容となっております。

それでは、6 ページ、7 ページ目、小学校国語からご説明させていただきます。小学校国語につきましては全国平均よりやや下回っておりますが、話すこと・聞くこと、書くことの領域においては、全国平均を上回る結果となりました。しかしながら、読むこと、今回の問題ではある程度の分量やまとまりのある文章を最後まで読み切る、大筋を捉える、表現の効果を読み取るなどに課題がありましたので、そこについて指導の改善にむけてという形で示しております。

また、読むことにつきましては、左のページ、6 ページの下のほうにあります平均無解答率にも影響があると捉えております。他教科と比べまして、小学校国語ではこの平均無解答率が全国に比べて高いという傾向がありました。問題文を読むこと、学力調査の問題は非常に文章が長いので、そこにも影響があるのかなと捉えております。

続いて、8 ページと9 ページ、小学校算数です。全体、また、各領域とも全国を上回る結果となりました。その中でも図形、基礎的、基本的な知識は身につけているものの、図形を構成する要素を見いだして活用することに課題があったり、これも活用になるのですが、日常の具体的な場面と関連づけて活用していったり、そのような場面において課題がありましたので、指導の改善にむけてという形で示しております。

続いて、10 ページ、11 ページ、中学校国語になります。こちらも全国平均を上回る結

果となりました。その中で課題として見られたのは、目的に応じて情報を適切に要約することであったり、説明する文章において図表などの資料が持つ役割を理解できるようにすることであったり、情報を関連づけたり活用したりするところにこれからの課題が見られましたので、指導の改善にむけてという形で示しております。

最後に、12ページ、13ページ、中学校数学についてです。こちらについても全国平均より大きく上回る結果となりました。その中で、全国よりも上回ってはいるのですが、平均正答率を見ると、図形の領域、筋道を立てて考え、証明することに課題が感じられました。仮定と結論の違いを理解して、基本事項の定着を目指して指導するなど、図形への理解を深められるように指導の改善を図っていきたいと考え、示しております。

学力調査の結果についての公表は以上になります。ご確認をお願いいたします。

○教育支援担当課長 それでは、15ページからの児童生徒質問紙調査結果ということでお伝えさせていただきます。15ページにありますとおり、児童生徒質問紙と各教科の正答率とのクロス集計について4つの項目から、そして、下にありますとおり、結果から5つの項目について、最後に、ご家庭で協力していただきたいことの3つで構成しております。

それでは、16ページをご覧ください。まず、学力との関わりということでまとめたものです。まず、生活習慣（朝食）を取り上げました。「朝食を毎日食べていますか」ということで、毎日食べている、どちらかといえば食べているということでグラフにまとめたものでございます。小中学校ともに全国平均と同様に高い傾向にあります。右側の5年間の比較についても、若干の減少傾向は見られるのですけれども、ほぼ全国と大きく離されていないというところがあります。下側の各教科の正答率とのクロス集計は、やはり朝食で食べたものがエネルギーとなって学習の力にもなっていることが分かります。食べている子ほど平均正答率を上回っているという調査結果が分かりました。今後も朝食と就寝時間等の生活習慣は特に学力に大きく結びつくということを学校でも指導しつつ、家庭への協力の投げかけもやっていく必要があると思います。やはり学級に二、三人、朝食を食べていないという中学生も見られるところがありますので、そういったところも授業または家庭での周知ということでやっていきたいと思っております。

続きまして、17ページです。17ページは学習習慣（家庭学習）ということで、放課後の学習習慣についてお話しいたします。質問としましては「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強し

ている時間やインターネットを活用した学習時間も含む)」というものでグラフを構成いたしました。小中学校ともに、ほぼ3時間以上、2～3時間以上、1～2時間以上ということで学習の様子を見たところ、海老名市の場合は小中学校ともに全国平均を大きく上回っており、特に中学生においては全国を大きく上回っていることが分かります。中学生のほうは、2～3時間以上勉強している子の割合が相当高い傾向にあります。全国平均と比べても、5年間の推移としても、海老名市は上昇傾向が見られることが分かります。やはり学習した時間に比例して正答率も、下のグラフにありますとおり大きく上回ってございます。やはりこういう学習習慣、計画的に学習を続けることで、しっかりとした学力として定着が図れると思いますので、より計画的に学習することを子どもたちにも伝えていく必要があると思います。また、ICTの活用も図られているところでございますので、そういった活用も含めながら、家庭学習の充実というところも声がけして、家庭にも協力を呼びかけたいと思っております。

続きまして、18ページです。18ページはICT機器の授業活用についてまとめたものでございます。「前学年までの授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」というものになります。こちらも海老名市は、ほぼ毎日、週3回以上使っている子の割合を見たところ、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回っている状況がありました。5年間の比較も、海老名市は上昇傾向が見られるところでございます。やはりICT機器の授業での使用ということで、活用したところ、学習のテストやクロス集計も比較的いい結果が見られたところでございます。特に中学生の棒グラフを見ますと、使った子ほど正答率が高くなるという傾向も見られますので、これからは授業の中でよりよい効果的な活用方法を見いだしながらやっていく必要があるということで家庭にも呼びかけたいと思っております。また、今は不登校児童も増えておりまして、そういったお子さんたちが使えるような学習アプリも市から提供しておりますので、そういった活用もまた研究しつつ、よりよい効果的な活用を図っていきたいと思いますし、外国につながりのあるお子さんたちが日本語で困ったところ、そういったアプリとかを使って、翻訳も使いながら学習に結びつけられるように活用を図っていきたいと思っております。

19ページでございます。学力との関わり、学習に対する姿勢ということで、児童生徒の主体的な学びの姿勢についてまとめたものでございます。「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」、もう1つの質問は「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」と

ということで、子どもたちの主体性を聞いた質問でございます。やはり分からないこととかを自分で学び方を考えて取り組んだであるとか、自分で考え、自分から取り組んだという主体性が見られた子ほど正答率も高いという結果が見られます。子どもたちの主体性はすごく学習にも結びつく結果になっておりますので、授業の中で主体性が育まれるような学習計画、そして先生方からの声かけ、発問の仕方、そういったところも今後研究を図りながら、子どもたちへのよりよい主体性を育む授業づくりをやっていく必要があると思います。家庭でも子どもたちの主体性を育むために、子どもたちが、自然環境とか、いろいろな周りの環境で気づいたこととかをよりよく褒めたり、価値づけたりすることで子どもの主体性が伸びると考えますので、そういった声かけも図るよう家庭にお伝えしていきたいと思っております。

20ページです。20ページは「生活習慣」から5年間の比較をまとめたものでございます。「毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか」ということで、就寝時間のことで聞いたものでございます。「毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか」ということで、全国と大きく差はないですけれども、やはり中学校のほうは学習時間などで時間が取られるところがあるかと思えます。就寝時間にも少しばらつきがございますので、そういった生活習慣は改善を図る必要があると思えます。下の「学習習慣」は、そこにあるとおり大きく上回っているところでございます。

21ページです。児童生徒の主体的な学びということで、先ほどお話ししたとおり、全国平均を小学校は若干下回っているのですけれども、中学校は上回っているという結果でございます。その下「規範意識・自己有用感」ということで、自分の中の自己肯定感、自己満足感、人のために役立っている自己有用感、また、規範意識等の結果になります。

「自分には、よいところがあると思えますか」では、小中学生とも全国平均と大きく差はないのですけれども、中学校は若干下回っているところが見られます。5年前と比べると増加傾向にはあるのですけれども、やはり全国と比べると低いところがあります。下の「将来の夢や希望を持っていますか」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはありますか」と聞いたところも大きく離されてはございませんが、中学生となると、いろいろ自分のことも客観的に見詰められるところがあると思えますので、学校の中で子どもたちのよさや主体性が認められるような声かけであるとか、活動の中での価値づけを学校、また、家庭でも図られるよう周知していきたいと思えます。

22ページでございます。22ページは「学校は楽しいですか」「友だち関係に満足してい

ますか」ということを聞いたところでございます。真ん中の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。（当てはまるの割合）」を調査したところ、全国平均を下回っているところがありました。95.3%なのですけれども、やはりいじめはどんな理由があってもいけないと絶対に思っているところだと思います。また、物事を客観的に見られる中学生とか、そういった成長段階もあると思いますが、学校でそういった事象が起きた場合、いじめはいけないことをしっかりと考えられるような声かけや問題解決、そういった関わりも学校でやっていけるようにしていきたいと思っています。「地域とのつながり」については今回1問だけ「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問でした。小学校では総合的な学習の中で地域との関連性があるので高い割合が見られておりますが、中学校は全国平均より若干低いところがあります。例えば、大谷中学校ではお米作りなど、各中学校での地域性を生かした取組もありますので、そういったところを学習の中でも生かしながら、地域の中で生きていく、過ごしていくという意識を、子どもたちに育むような取組をしていきたいと思っているところでございます。

23ページ「教科学習」については、国語、算数、数学、総合的な学習、道徳の時間ということでグラフを示したものでございます。全国平均より若干ながら下がっているところもありますけれども、総合的な学習では大きく上回っているところがありました。「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」といったところはICTの活用と同時に、子どもたちのよりよい発表の工夫に結びついている、自分の考えを発信する手段にもつながっていると思っております。道徳でも、やはり友達との間で協働的に話し合ったり、学んだりということが子どもたちの自分の力にもなっているというような結果が見られているところでございます。

以上、今お伝えしたようなことを大きく4つにまとめたものが最後の24ページにございます。まず、規則正しい生活習慣は、やはり子どもたちにとって必要なものということで、家庭にも協力をお願いしたいと思っております。

2つ目は自分の良さに気が付く声掛けをということで、自己肯定感、自己有用感を高めるために、子どもには、できないことよりも、できることを評価しながら、子どもたちの主体性に結びつけるような声かけ、姿勢を育みましょうということをお伝えしたいと思います。

そして、学習のほうでは、計画的な家庭学習に取り組むことでしっかりとした定着を図

りたいというお声がけをお願いしたいと思います。

最後は、地域の方々と顔が見える「つながり」をつくっていきましょうということで、コミュニティ・スクールを導入して、地域も学校にどんどん入ってきていただいているので、地域で子どもたちと一緒に育てていくために、地域の行事等にもご参加をお願いしていきたいと思っております。

○教育支援担当部長 それでは、25ページからの学力向上のための「8つの教育施策」についてでございます。先ほど私からダイジェスト版で項目が8つ挙げられていることはお話ししたとおりなのですが、それぞれの項目についてもう少し詳細、そして、それに係る令和6年度、今年度の予算を示して、教育委員会として取組を進めているところをより分かりやすくご説明している内容となっております。以上がカラー版の別冊資料1つ目のご説明となります。

それでは、もう1冊、別冊資料、各校の調査結果となります。こちらのつくりとしては、市教委で全体的な学習状況調査の目的、調査対象、そのあたりについては共通のもので、統一して学校に示させていただいています。各学校が、国語、算数、中学校では数学、そして児童生徒質問紙について、項目についても教育委員会でこういった内容について分析してくださいと各校をお願いしているので、内容の分析項目については各校共通のものになっています。各校の児童生徒の実態、そして、各校の学校教育目標等を踏まえて、各学校が比較的できている点、課題のある点、今後の具体的な指導改善のポイントということでまとめております。そして、質問紙に係る分析を踏まえて、各学校が保護者の方をお願いしたいことということで、データを基に、お願い、協力依頼するような内容といったつくりになっております。19校分まとめてあるところでございます。

○伊藤教育長 それでは、今、海老名市としての結果の公表の案、学力という意味で、小学校の国語、算数、中学校の国語、数学、児童生徒質問紙ということで、子どもたちが生活とか学習に関わるアンケートに答えるような形で全国でまとめたもの、市の子どもの結果の様子、学校ごとの公表冊子ということで説明がありましたけれども、皆さんからご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

○濱田委員 大変細かい分析をしていただきまして、大変ありがとうございます。小学校、中学校で私が興味があったのは、クロス分析されている中でICTの関係。学校でも子どもたちに1人1台という形で授業の中でも反映されているのかと思いますけれども、その普及度合いによって、正答率とか、あるいは逆に無解答率に変化等が出てきているのか

なと思うのですけれども、そのような変化の把握というのはいかななものでしょうか。もしお分かりになれば教えていただければと思います。

○五十嵐指導主事 ICTの活用が今回の調査においてどのように影響があったかということころなのですけれども、児童生徒質問紙調査の報告には挙げさせていただいたのですけれども、ICTの活用率が高いほど、国語、算数、数学の正答率が全体としては高いという傾向が現れておりました。ただ、その中で、読む、書くの問題への詳細がどう現れているか。そこまでのクロス集計についてはまだ分析できておりませんが、全体としてはICTを活用している子ほど正答率が高いような結果が全国としても、市としても現れているといった結果が出ておりました。

○濱田委員 分かりました。ありがとうございます。

○伊藤教育長 ただ、これの面白いのは、18ページを見ていただいて、小学校の結果、青色がほぼ毎日使っている子なのです。でも、よく正答するのは週3日以上の子ども。要するにここは逆転しているのです。だから、毎日ICTを使うのがいいのか、必要な日にち。だから、小学校は、週3日の子のほうがよく正答している。ほかのものは全部斜めのだけれども、ある意味、ここだけで逆転しているのです。だから、それはICTの活用が効果的に使われることが一番なのだろうなということがあります。

あとは、濱田委員がご懸念のようにこれからAIのことが進むと、多分これは教育に1つの大きな影響を及ぼすことが懸念されるので、ただ、実際、学校に行くと、子どもたちはまだ教科書を見て、ノートに鉛筆で書いていますので、その辺で私はほっとしているところでございますけれども、それは今後とも懸念されるのかなと思います。

○濱田委員 児童生徒質問紙、アンケートの取り方というのは学校でどのように設定しているのかな。質問一覧表があって、それに対して、マルとか、バツとかつけていくような感じで……。結構な質問数があると思うのですけれども、状況調査の一環として、試験が終わったらこれをやるとかになっているのですか。その状況だけ。

○五十嵐指導主事 質問調査のやり方については、今年度、CBT調査ということで、1人1台端末を使って、質問に答えたら次のページに行って、質問に答えたら次のページに行っていくという形で、ICTを活用した回答の仕方となっております。お手元に質問紙の問題がないのはそのためで、一覧しかご用意できなかったのですけれども、そのような形で行い、これまででしたら、国語、算数、数学の調査を行った後に質問調査を行うのですが、もちろんその日にやってもいいのですけれども、全国的にICTを使った調査になっており

ますので、日にちを替えながら実施しているところです。

○濱田委員 それは学校でですか。

○五十嵐指導主事 学校でやります。

○伊藤教育長 ただ、そのデータはみんな直に行ってしまうということです。

○武井委員 なるほど。集計しやすいように。

○伊藤教育長 集計するのは業者ですけれども。だから、国がそういう形で集計して、子どもたちの声を聞くことは可能になったということです。それはシステム上の問題で、これをどう活用するかはまた別の問題なので。

○海野委員 感想といいますか、本当にいろいろまとめいただいてありがとうございます。また、見てみると、海老名市の小学生は割と平均的にいっている感じがするのですが、中学生は、お勉強のほうは結構いい結果が出ているのに、最後のほうの結果「授業の内容はよくわかりますか」とか、そういったところでは回答が割と低いほうになっていて、もっと自信を持っていいのになというところがあるので、ここにまとめていただいていますけれども、もっと自己肯定感が高くなるように、周りからも声がけをしていけたらいいなと感じる結果が出ているのではないかなと思いました。

○伊藤教育長 全国学力・学習状況調査の焦点は学力にいくのですが、実際は子どもたちが、学校が楽しかったり、自分はいいところがあるのだと夢が持てたりするような点が低くなるということは、実は結構大きな問題なのかな。その辺は点数と言うとあれだけれども、学力が高ければいいという問題ではないなということは、その辺のほうが実際は大きな問題なのかもしれないので、各学校、もちろん教育委員会もそうですけれども、その点に焦点を当てることは必要なかなと思っています。

○海野委員 褒めていきたいですね。

○伊藤教育長 ご家庭でね。よろしくお願いします。

○武井委員 海老名市は比較的学习習慣の時間が長いのですが、その要因が1つ。あと、どうしても小学校の無解答が多いといったところの対策はこれからこういった感じでやっていくのか、少しご質問したいのですが。

○教育支援担当課長 学習習慣の時間の長さということでお話ししたいと思います。学校で学習したことを宿題、家庭学習として先生方も出したり、子どもたちが主体的に取り組む学習習慣を身につける1つだと思っています。私が学校にいたときは宿題の形も変わってきていると感じたこともありまして、今までだったら先生が用意したプリントに取

り組むだとか、ドリルを使ったこのページからこのページまでやるとか、そういった形の宿題も多かったと思うのですけれども、与えられるだけでは子どもたちの主体性も育まれないし、子どもたちは自分たちで取り組む力を身につけたいということもあって、学校で今いろいろ話し合いをしつつ、低学年は形式もまだ分からないところもあるので、先生が用意したプリントを解く宿題もあると思うのですが、3年生以上になってくると、例えば漢字の学習も自分で書き順を調べたりとか、自分が興味を持った学習をノートに書いて、それを学校に出して、先生方ともいろいろ見ながら、一緒に話し合いながらやるような仕組みもどんどんできていると思いますので、そういった自分たちで取り組む時間。言われただけではなくて、主体的に取り組むようなことにもつながっている一因ではないかと思っております。

あと家庭の方針で放課後学習、例えば習い事であるとか、塾とか、そういったところもあるかと思うのですけれども、学校での1つの取組としてはそういったことが挙げられると思います。

○五十嵐指導主事 無解答率の課題についてですが、やはり今おっしゃったとおり小学校のほうに主に課題があると捉えております。それにつきましては、中学校に比べて小学校については、多様な問題を経験していないところがあるのかもしれないと感じております。多様な問題に対して問題解決を行っていき、そのような経験を積んでいくこと。問題の形式もそうですし、内容についてもそうですし、学習の展開、授業の在り方を見直すとともに、どのようにして評価していくのかというものをしっかりと検討した上で、子どもたちが様々な、多様な問題解決を経験できるように考えていきたいなと思っております。

また、先ほどお伝えしたとおり、やはり国語の無解答率と読むこととのつながりというもの切っても切り離せない内容かと思っておりますので、読むという点においてどのように改善を図るべきか、引き続き研究を進めていきたいと思っております。

○伊藤教育長 指導主事は正しい答えをきちんと伝えていたけれども、実を言うと、学校の授業外の学習時間なので、やはり塾の時間というのは海老名では大きく影響していると思います。だから、海老名の子どもたちは学校外で、教育支援担当課長は学校の主体的な課題を投げかけているけれども、多分塾で縛られた時間で毎日何時間か、そこに通って勉強することも加算されると思います。五十嵐指導主事の無解答率のほうも、ここに問題がありますけれども、多分、我々が解いても少し難しいものがあって、これを初めて見て、問題文の趣旨を読み込んで、読み取って、そこに答えを用意することは結構難し

いので、そういう意味で、算数、数学でも、やはり問題文を読み取る力、読解力がかなり必要なのかなとは感じますね。カラー版にしてくれるとか、挿絵がついていると……。字がぱっとあって、これをさっと読んで、すぐ問題に取りかかる。だから、この問題を解く子どものほうが私は偉いかなとは思っていますけれども、これは感想です。

○平井委員 毎年分析していただけるのはありがたいと思うし、大変だろうなと思っています。でも、学校にとったらとてもいいことですし、6年生として結果が出ているけれども、実は1年生からの積み重ねなのですよね。1年生からどのようにそれぞれの分野で指導してきているか、基礎がきちんとできているかにつながると思うので、やはりそのあたりは、学校がこれを通してどのように今後の授業を進めていくか、先生たちの指導をどうしていくかというところをもう1度振り返るいい機会にさせていただきたいなと思います。

いろいろな結果が出ていますが、私が目をつけたのは中学校の道徳なのです。道徳は活動に取り組んでいるという子どもたちが89%あるので、このあたりが授業の中でも大きいのかな。自分の思いを深めたり、話し合ったりする活動が取り入れられていて、ほかの授業にも波及していく部分ではいいのかな。道徳は自由に自分の思いを伝えることができるので、そういう習慣をつけていけばほかの教科でも十分通用してくるのではないかなと感じました。

もう1点は、海老名小学校の「本校のよかったところ」にあるのですが、質問がすごくたくさんある中で新聞を読んでいるというところ。ここには結果としては載っていないけれども、細かい項目の中に入っていますよね。新聞を読んでいると回答した児童が多いということで、学校では、世の中の動きや生活に役立つ情報など社会に対して関心を持っていることがよく分かるということなので、このあたりが1つの大きいところでもあるのかな。小学生から新聞に目を通して、社会の流れを知っていく。学校でも図書室に新聞等が入っていると思いますので、ただ入れているだけではなくて、どのように授業の中で活用していくのか、また、休み時間にどのように子どもたちに新聞に目を通させるのか。学校にあるものをどのように活用していくかというところも大きいのかなと思います。もちろん学習指導は大切だけれども、やはりそれに付随するものが学校には多くあると思いますので、そういうところに目を向けていくというのも新聞の1つのいい例ではないかなと思うので、こういうところも各学校に広げていっていただけたらありがたいなと思います。

○伊藤教育長 意見ということでよろしいですか。

○平井委員 はい。

○伊藤教育長 児童生徒質問紙の後ろに学校質問紙というのがあって、校長先生が答えるのですけれども、これはここでは公表しないのですけれども、これもまた面白いです。そういうものもあります。

○武井委員 学習指導要領の領域等の平均正答率の中で情報の扱い方に関する事項があるのですけれども、小学校が高くて、中学校が低くなる要因はというのが1つと、児童生徒質問調査紙結果の中の中学生で地域や社会に関わる活動が全国的に低いというのはどういった理由でそうなるのかというところが分かっていたら教えてほしいなと思うのですけれども。

○五十嵐指導主事 小学校、中学校においての国語、情報の扱い方に関する事項についてなのですが、扱われた問題のレベルによって正答率は大きく違っていたかなと感じております。小学校については、問題を見ていただくと、小学校についてはウェビングマップと言われる思考するためのツール。

○伊藤教育長 黒板にこうやって書いていって、子どもたちの意見や考え方を図にしているのですね。問題文だったら何ページになりますか。

○五十嵐指導主事 7ページをお願いいたします。7ページのこのような図を使いながら、ここに書かれている情報と情報を関連づけて解く問題になっております。そして、この正答率がよかったと捉えているのは、この図自体を日頃から子どもたち、小学生が扱っていることが大きな要因ではないかなと思っております。国語の授業だけでなく、総合的な学習の時間などにおいて思考を広げていく機会がたくさんあります。その中でウェビングマップ、思考ツールを活用して授業、学びを深めていく場面を私もたくさんの授業で見させていただくことができました。こういった経験によって子どもたちが身近であったこと、そして、そこでたくさんの学びをしていることが小学校国語のこの問題の正答率の高さにつながっていたのかなと感じております。

一方、中学校の問題なのですが、中学校の問題で情報の扱い方を見られた問題は、最初のフィルターバブル現象です。最近ニュースにも取り上げられておりますけれども、フィルターバブル現象、このことについて中学生同士が対話をして、話し合っていくという問題。その話合いの中で、意見となっているところはどこか、根拠となっているところはどこか、事実となっているところはどこかを整理した上で、関連して考える問題となっております。質の高い、レベルの高い問題となっているかなと捉えております。文章の中で、もしくは対話、コミュニケーションの中で、どれが根拠なのか、どれが意見なのか、

そちらについての区別がつかないとこの情報はうまく扱えないというところがこの問題の難しさに表れているかと思います。ですので、中学校の情報を扱う問題に対しての正答率には課題が見られたのかなと捉えております。

○武井委員 兵庫県知事選の斎藤さんみたいなやつですね。

○伊藤教育長 そういうのも既に勉強……。だから、子どもたちがSNSで正しい情報をどう分析するかということは1つの課題になっているので、それで、意見と事実を……。だから、文部科学省は、今の時代にあって、これから子どもたちが身につけなければいけないものを問題として出してくるのです。さすがによく考えてつくってあるということです。

○武井委員 本当ですね。こうやって図になると、今の社会情勢とか、例えば選挙なんかも分かりやすくなる。

○教育支援担当部長 2つ目のご質問、地域とのつながりの部分なのですが、こちらはダイジェストのときに私からも、長年というか、過去から海老名市の課題だということも少し触れたのですが、まず質問の内容は、今年度は「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」というこの1問になったというのがあります。過去には地域とのつながりに関わる質問でも、ごめんなさい、過去のものが手元にないのですが、地域の行事に参加したことがありますかですとか、地域の方と何かに取り組んだことがありますかとか、複数あったのですが、今年度はこの1問に絞られたということ。先日の学校向けの説明会でも、私、触れたのですが、実際数字としては、全国比では海老名市の中学生は少し低く見えるのですが、例えば先日の市民まつりに中学生がブラスバンドで出ていたりとか、地域の自治会の催しとかに積極的に合唱とかブラスバンドが出ていたりとか、あるいは運動部がお祭りの手伝いをしたりとか、結構実例はあるのかなと思っているので、この質問にどういう気持ちで答えたかは定かではないのですが、そういった機会を与えられているので、地域とのつながりを感じて、今後これが向上していくようなチャンスというか、機会は幾つもあるのかなと。先ほど担当から言った大谷中学校が今回の市民まつりでお米を販売していたりとか、日頃2年生が職場体験学習で主に海老名市内の企業や事業所に体験に行ったりとかということで、よく考えてみれば幾つもあるので、そのあたりをこういったことと絡めて、先生方の一声、二声の説明によって、地域とつながっているのだなというような意識が生まれるのかなと思うので、そんなことも考えているところでございます。

○武井委員 質問の仕方によって多分回答のパーセンテージが変わるような気がします、分かりました。

○海野委員 算数と数学なのですが、基本的に数学の質問項目はいつも同じような項目で来ていると思うのですが、小学校のときは図形が飛び出ているのに、変化と関係がすごく少ないところへ、中学校になるとすごく関数が増えてくるというのは、そこを重点的に教えているとか、そういうところがあるのですか。

○五十嵐指導主事 まず、中学校の数学における関数については、丁寧に指導してきた結果がこのように現れていると思います。小学校算数について見てみますと正答率が低く、では、どのような問題が変化と関係、関数につながる問題として出題されたのかといえますと、速さの問題でした。問題を見ていただくと……。

○伊藤教育長 小学校算数、何ページですか。

○教育支援担当部長 13、14ページ、大きい左の4でございます。

○五十嵐指導主事 道のりと時間と速さの関係、数量の関係を捉えていく速さについては、一見日常生活と結びつきやすい内容かとは思いますが、その図表と式とか数学的な思考、表現がなかなか結びつかない、イメージがつきにくいところが特徴として挙げられて、小学校で算数の授業をする際にもどのように指導していったらいいのか、考えさせたらいいのかというところが本当に悩ましい単元でもございます。その中で定着が図られなかった子が多かったのかなとも考えております。ですので、速さを公式、知識として覚えさせるのではなく、関数につながる、複数の数量の関係を例えば図にして表しながら、数量の関係としてしっかりと捉えて学んでいくことが必要であるなど。その意味でも、全国学力・学習状況調査で系統を知ることができたというのは大きな成果かと思えますので、関数につながるということを今回のことで学んだので、そこをまた授業に生かしていけたらなと考えております。そのような形で出題された内容がこの結果では大きく現れているのではないかなとは捉えております。

○伊藤教育長 先ほども子どもたちが授業の中で思考ツールとして先生が黒板に書いて、まとめる。そういう経験があるものだから、これはやはり指導の結果なのです。毎時間、毎時間、先ほど平井委員が言っていたように1年生から6年生のあれですけれども、6年の授業で結果が生まれるのではなくて、教員たちが学校で1年のときからどういう指導を積み重ねてきたかという1つの結果として受け止めて、各学校で、では、次の学年ではこういう指導、学校としてこういうことをやっていこうというためのものですので、結

果は結果として、それをどう生かすかはこれからにかかっているので、そういう意味で、教育委員会として学校にそれを投げかけていくための調査である。だから、何点取れたかと都市間で比べたり、学校ごとに比べるのではなくて、その学校の教員たちのこれまでの指導の結果としてそれが出ているので、それを受け止めて改善するというのがこの目的だということなのですよ。それでも子どもたちはよく問題を解くなあと、これを見て私は思います。

○海野委員 中学がすごい。

○濱田委員 1点だけいいですか。この様式自体、あるいは冊子というか、結果の構成自体は全国的に統一されたものなのか、あるいは海老名市独自のものなのか、学校別の調査結果報告書についても同様にご質問させてください。

○教育支援担当部長 これは海老名市独自で、過去の指導主事や教育長からの指導、助言等を受けて整ってきて、ずっとやってきている形で、私が言うのもあれですけども、ここまで詳細に分析したり、学校別の結果を出しているような市町村はなかなかないかな。そのあたりはもしかしたら教育長のほうがお詳しいかもしれません。ここまでやっているところはそれほどないのではないかなと感じています。

○濱田委員 分かりました。

○伊藤教育長 この結果を公表するかどうかで海老名市は1回新聞沙汰になって、私が公表すると言ったものですから、それで大騒ぎになったのですけれども、点数を公表するのではない。でも、市はやはり点数を公表して、その結果を踏まえて。だって、教育委員会はそれを次の施策に生かさなければいけないので、やっている。だから、多分ここまで、図か何かの表はもう何年間も積み重ねて、分かりやすいように変えてきたので。この全国学力・学習状況調査の結果報告については、海老名市は他市に先駆けて行って、それも大分充実している状況です。最初私は、学校ごと、点数でやると言ったから大騒ぎになってしまったので、それはやめたのですけれども、それでも学校は学校で、最低でも先生たちはその結果を分析して、文章でもいいから表記する、まとめる取組自体が必要なので、学校ごとにこういう冊子が出ている市町村もないと思います。

○武井委員 すごく分かりやすいです。

○濱田委員 もう1回。そうしますと、先だって、12日ですか。この資料を小中学校の教職員に対して説明されて、これは管理職の方ともう1人ということでしたけれども、この資料の各学校への周知度については各学校に相当ウエートがあると思うのですよ。我々

がこれを見て確認しても、各学校それぞれ、末端の教職員の方までこの資料が行き渡らないと、こちらの趣旨が伝わらないのではないかと思います。それは今回、相当丁寧に説明していただいているのかどうか、お聞きします。

○教育支援担当部長 先日の12日の説明会の際も、実際に先生方からそういった要望もありましたので、今、教職員1人1台、授業用の端末がありますので、そこに掲示板というような形でデータを貼り付けたり、我々もふだん学校に行っている指導、助言等していますので、事あるごとにこの結果と照らし合わせて、その学校の特徴とかをつかみながら、結びつけて指導しているような状況もありますので、先生方の中にもこういった冊子とかにまとめて終わりではなくて、それを活用したいという意識があるので、それに応えるような工夫をしていきたいと考えております。

○濱田委員 そうですね。結果を流すだけではなくて、必ずリターンというか、キャッチボールみたいな形でよりよくしていかないと、文書だけだったりあれだと理解が違ってしまったりするといけないと思うので、せっかくこれだけの資料をつくっていただいたので、ぜひそういうところにも注力していただいて、やっていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○教育支援担当部長 ありがとうございます。

○伊藤教育長 学校に出す文書ですけれども、実を言うと、各学校、これと同じようなことをやっているのです。学校の点数は全部分かるので。これを文書に表しているだけで、自分の学校のは全部知っているのですよ。この結果が出たとき、みんなで分担し合って、調査結果の分析は各学校でもしっかりやっています。それはかなりの時間をかけてやっていると思います。みんな嫌がっていたかもしれませんが、学校は学校でそうやって……。

○濱田委員 基礎ができていないと困りますからね。

○伊藤教育長 それではよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 今、案という形で、市の結果と学校の結果の冊子を皆さんにご検討いただきました議案第24号について採決いたします。本件について、何点か修正事項はありましたけれども、修正の上可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって、日程第1、議案第24号を修正の上可決

することに決しました。

○伊藤教育長 続いて、報告事項に入ります。

日程第2、報告第34号、令和6年度海老名市一般会計補正予算（第6号）のうち教育に関する部分に係る意見の申出についてを議題といたします。

説明をお願いします。

○教育部長 それでは、資料3ページをご覧ください。報告第34号、令和6年度海老名市一般会計補正予算（第6号）のうち教育に関する部分に係る意見の申出についてご説明申し上げます。

報告理由につきましては、令和6年度海老名市一般会計補正予算（第6号）のうち教育に関する部分に係る意見の申出を行ったためでございます。

資料4ページをご覧ください。1、概要でございます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、海老名市長から意見を求められたため、異論なしとして申出を行ったものでございます。

2、教育長の臨時代理でございます。こちらは既にもう11月13日に開催されておりますが、令和6年第3回海老名市議会臨時会に上程いたしました補正予算案について、10月29日付けで市長から意見を求められましたが、その対応に急施を要したことから、海老名市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則第3条第1項の規定に基づき、教育長が臨時に代理し、申出を行ったものでございます。

3、意見を求められた議会の議決を経るべき案件でございます。こちらは、令和6年度海老名市一般会計補正予算（第6号）のうち教育に関する部分でございます。

4、海老名市長からの文書につきましては、次ページになりますが、5ページに添付、また、5、教育委員会からの申出文書につきましては6ページ、6、根拠法令（抜粋）につきましては資料4ページの最後に破線の枠内にて記載しております。後ほどご高覧いただければと思います。

続きまして、資料7ページから9ページに令和6年度海老名市一般会計補正予算（第6号）【教育委員会所管部分】の資料をご用意いたしました。1、歳入歳出予算補正の（1）歳出でございます。今回の補正予算は、教育委員会各課の事業に係る人件費についてのみとなっております。要因としましては、人事院勧告に伴い、給与条例、その他関係例規が改正されたことによる人件費予算の増と当初予算時に想定いたしました執行見込

額の見直しによる予算減を行ったことによるものでございます。

また、人件費の予算科目ですけれども、正規職員の場合は職員給与費となります。会計年度任用職員の場合は報酬となります。今回は、10款教育費1項教育総務費から4項社会教育費までございますが、この全てに補正の対象がございました。要因は先ほどご説明したとおりで、同じでございます。そのため、細々目ごとの説明は、今回は省略させていただきまして、表の一番右の説明欄に詳細として記載させていただきましたのでご確認いただければと思います。

なお、正規職員の関係の所管は職員課となります。会計年度任用職員は各事業費の報酬として教育部の各所管課で計上させていただいております。

今回は歳入予算の補正はございません。

大変雑駁ではございますが、説明は以上となります。

○伊藤教育長 それでは、これは、11月臨時会がありまして決したものでございますので、報告という形でございます。今、教育部長から説明したとおり、人事院勧告に基づいた給与費の改正、簡単に言えば給料が上がったということで、その部分を補正で支払うということでございますけれども、ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○伊藤教育長 でも、私自身は、正規職員だけでなく、多くの人たちに関わっていただいて学校教育は成り立っているのだな。給食だって配膳員がいなければ配膳できないし、本当に多くの人たちがここに関わっていただいているなと感じるところでございます。

○武井委員 全てそうですね。

○伊藤教育長 それでは、ほかにご質問もないようですので、報告第34号を承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○伊藤教育長 ご異議なしと認め、日程第2、報告第34号を承認いたします。

以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしましたので、教育委員会11月定例会を閉会いたします。